

# 「弥生時代の鉄剣」

奈良大学文学部 豊島直博

## 1. 鉄剣とは？

- ・東アジアでは西周(前1100～770)時代の鉄剣がある。
- ・日本では佐賀県志波屋六本松遺跡の甕棺墓出土例(中期中頃、前2世紀頃?)が最古。
- ・弥生時代の鉄製武器には鉄刀(直刀・素環刀)、鉄剣、鉄戈、鉄矛、鉄鏃がある。
- ・剣には鉄剣のほか銅剣、木剣、骨製剣がある。鉄剣は約250点出土(2003年の集計)。
- ・2000年頃まで、全長、茎の長さ、両者の比率など、鉄本体の形によって分類されてきた(川越1993、大庭1986など)。

## 2. 把装具による鉄剣の分類(豊島2003)

- ・青銅製把 銅剣の把と共通(図2)。
  - ・木製把
    - ①二枚合わせ式
      - a. 鼓状、断面菱形、糸巻き(図6)。
      - b. 筒状、断面楕円形(図4)。
    - ②一木造り式
      - a. 刃部側のみから穿孔。ラッパ形。全長短い(図8)。
      - b. 両側、側面から穿孔。鼓形。全長長い(図10)。
    - ③四枚合わせ式 表裏、両側面から鉄本体を挟み、糸巻き、漆で固定。表裏の部材は根元で一体化し、長柄のヤリとなる(図13)。
  - ・鹿角製把 大半は全体が逆Y字形を呈する。岡山市津島遺跡例は例外的(図10)。
- ※茎の長さは把の材質や製作技法と密接に関わる。全長や幅はあまり関係ない。

## 3. 年代

弥生時代中期後半(前1世紀頃)	二枚合わせ式 a・b 青銅製把
弥生時代後期(後1～2世紀中頃)	一木造り式 a 青銅製把
弥生時代終末期(2世紀後葉～3世紀前半)	一木造り式 b 四枚合わせ式
古墳時代前期(3世紀後半～4世紀後葉)	一木造り式 b 四枚合わせ式

※弥生時代終末期(2世紀後葉)に把の構造が大きく変化する。

## 4. 分布(図5、7、12)

弥生時代中期後半	北部九州に集中。中国地方～東海、北陸まで散在。
弥生時代後期	木製把が九州～北陸、静岡まで分布。 鹿角製把が静岡、長野～千葉、新潟まで分布。
弥生時代終末期	木製把が北部九州～近畿まで分布。東日本では千葉県のみ分布。
古墳前期	東日本にも四枚合わせ式が分布し、地域性が解消される。 畿内に分布の中心が発生。

※弥生時代後期の東西差が顕著。対立か、文化の違いか？

## 5. 生産と流通

- ・鉄剣を生産する鍛冶炉は北部九州が卓越し、西高東低の状況。
  - ・弥生時代後期、鉄剣本体に明瞭な地域性は認められない(各地の個別生産ではない)。
  - ・東日本の鹿角装鉄剣では目釘穴を使用しない例がある(東日本で把を付け替え?)。
  - ・長野県根塚遺跡の渦巻文装飾付鉄剣は東日本の鹿角装鉄剣を模す。特別注物品?
  - ・西日本の木製把鉄剣は逆手(図15)、東日本の鹿角装鉄剣は拳銃のようにもつ(図9)。
  - ・長い鹿角装鉄剣は武器として不利。戦闘力よりも、身につけることに意義がある。
- ※弥生後期まで舶載・北部九州産鉄剣が東日本に流通。地域性は東西対立を反映しない。

## 6. 古墳時代の画期

- ・山陰、北陸、東日本にも一木造り式b鉄剣、四枚合わせ式鉄剣(ヤリ)が広がり、把の地域性が消滅(図16・18)。
  - ・分布の中心が畿内(奈良盆地東南部)に形成される(図16)。
  - ・大量に副葬する古墳が現れる(奈良県メスリ山古墳で212本のヤリが出土)。
  - ・ヤリの鉄本体の形は多様。刃関双孔をもつ鉄剣がヤリに転用される。
  - ・ヤリの生産は、様々な鉄剣を畿内に集め、特定の工房でヤリに加工し、再分配?
- ※大和政権ブランドの武器の創出。大和政権による生産と配布(武器の威信財化)。  
※大和政権の形成は、武力による侵略ではなく、有力者の連合と理解した方がよい。

## 7. 最近の研究動向

- ・鉄本体の詳細な観察の進展(杉山2016・2017など)。九州以外の地域における鉄剣生産を指摘(図2、ライアン2017など)。
- ・古墳時代における鉄剣の生産と流通の多元性(ライアン2019)。大和政権との関わりを示す武器と、実用的な在地産武器?
- ・伝世する鉄剣と「見えざる鉄器」論(禰宜田佳男)。奈良県纏向遺跡で鹿角製把が出土。集めた鉄剣を転用した後の廃棄品か?

## 主要参考文献

大庭康時 1986「弥生時代鉄製武器に関する試論—北部九州出土の鉄剣・鉄刀を中心に—」『考古学研究』第33巻第3号 考古学研究会

川越哲志 1993『弥生時代の鉄器文化』雄山閣

杉山和徳 2016「長茎短身鉄剣に関する一考察」『埼玉考古』第51号 埼玉考古学会

杉山和徳 2017「弥生鉄剣論」『日本考古学』第43号 日本考古学協会

豊島直博 2010『鉄製武器の流通と初期国家形成』塙書房

ライアン・ジョセフ 2017「長茎短剣の成立過程」『古代学研究』第212号 古代学研究会

ライアン・ジョセフ 2019「古墳出現期における刀剣類の生産と流通の二相—吉備地域を研究に—」『日本考古学』第49号 日本考古学協会

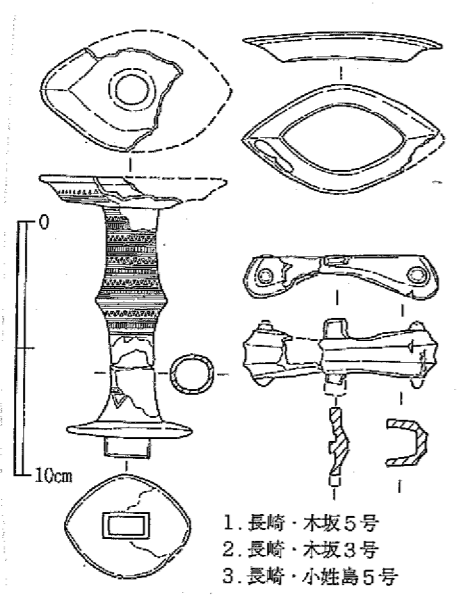
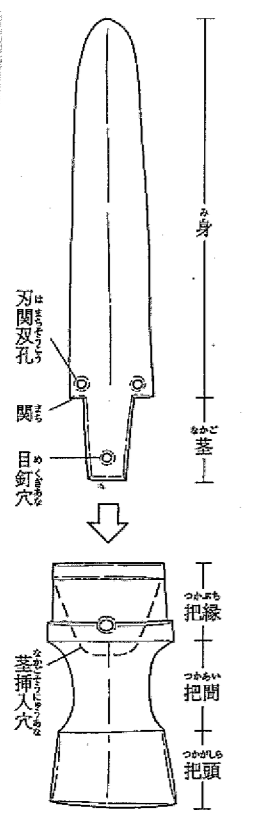
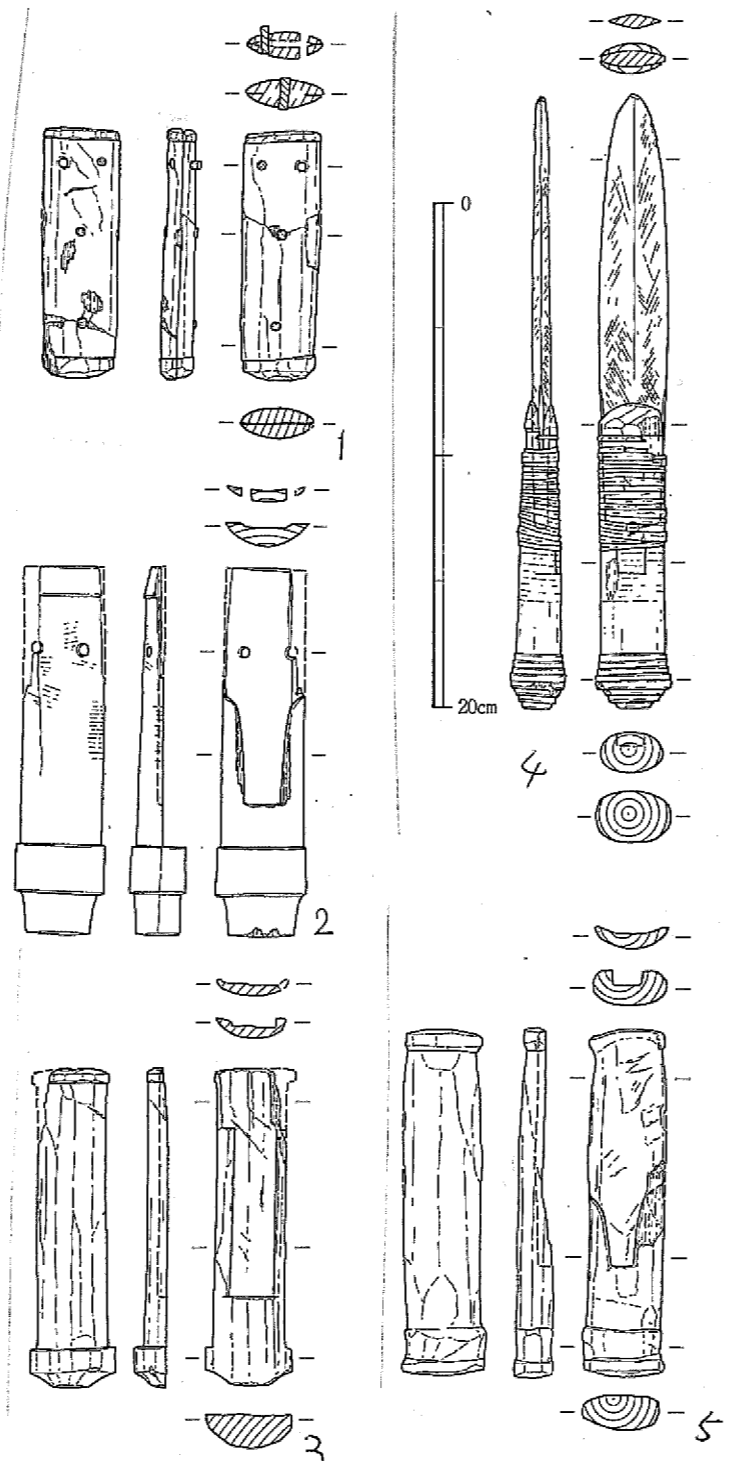


図2 青銅製把

図1 鉄剣の部分名称



1. 山口・宮ヶ久保 2. 京都・奈良谷  
3・4. 石川・八日市地方 5. 愛知・朝日  
図4 二枚合わせ式bの把と磨製石剣

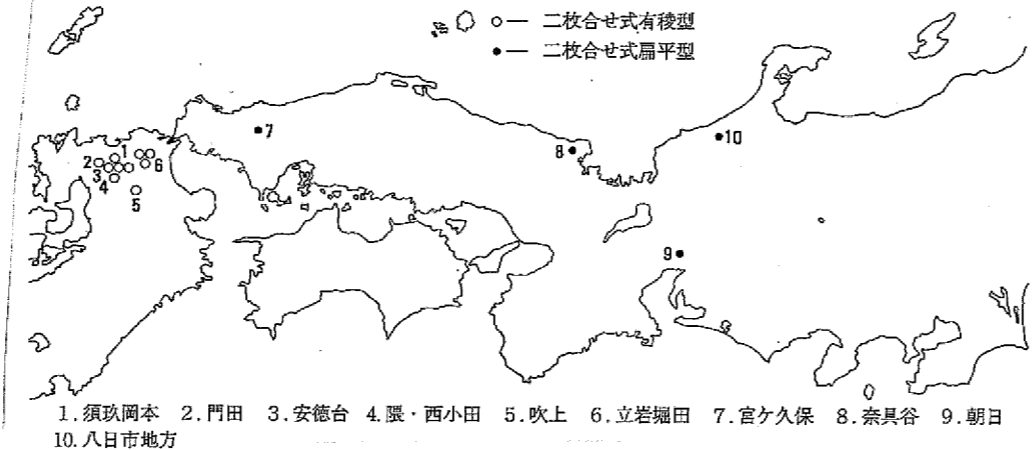
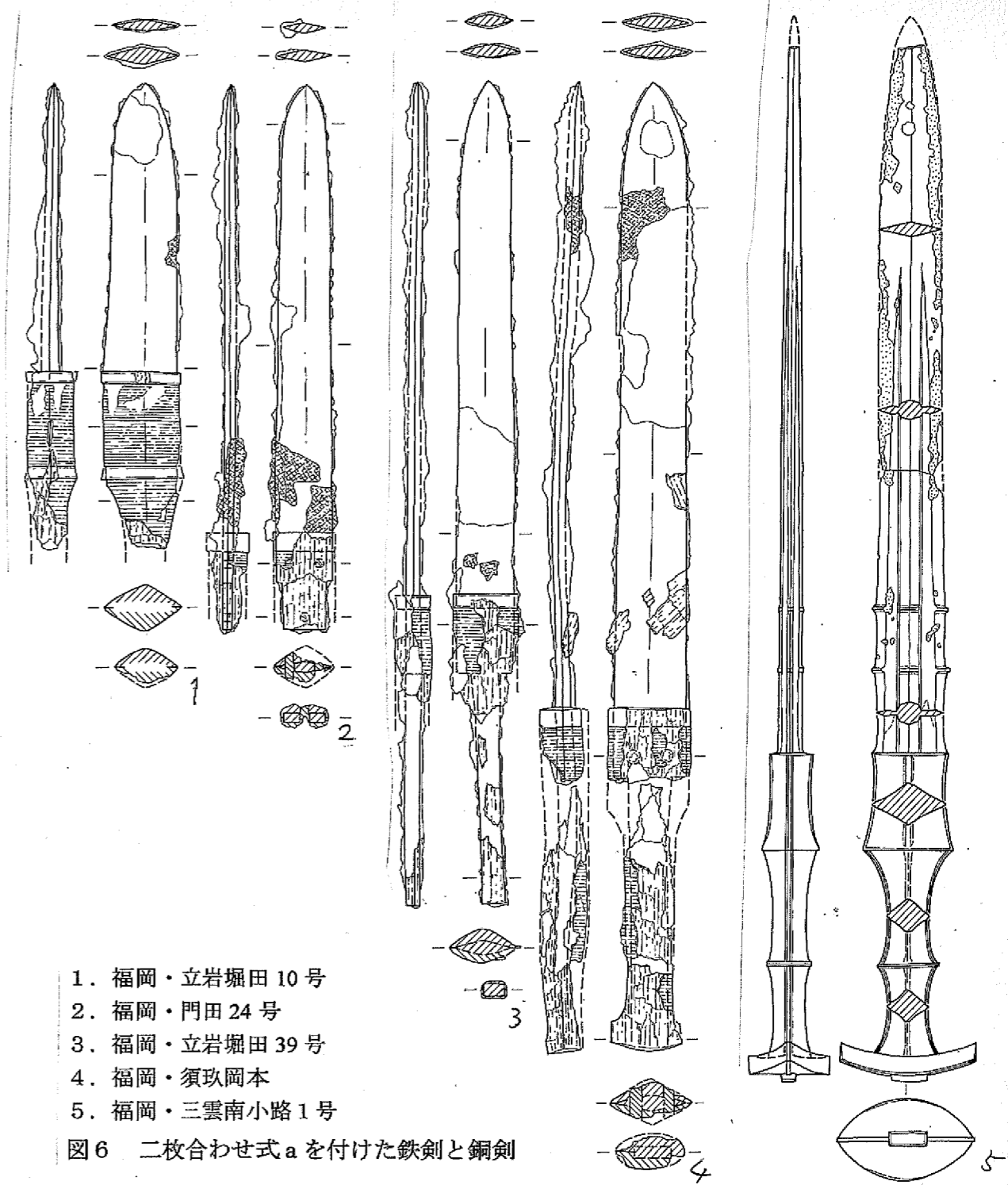


図5 二枚合わせ式把の分布



1. 福岡・立岩堀田 10号  
2. 福岡・門田 24号  
3. 福岡・立岩堀田 39号  
4. 福岡・須玖岡本  
5. 福岡・三雲南小路 1号  
図6 二枚合わせ式aを付けた鉄剣と銅剣

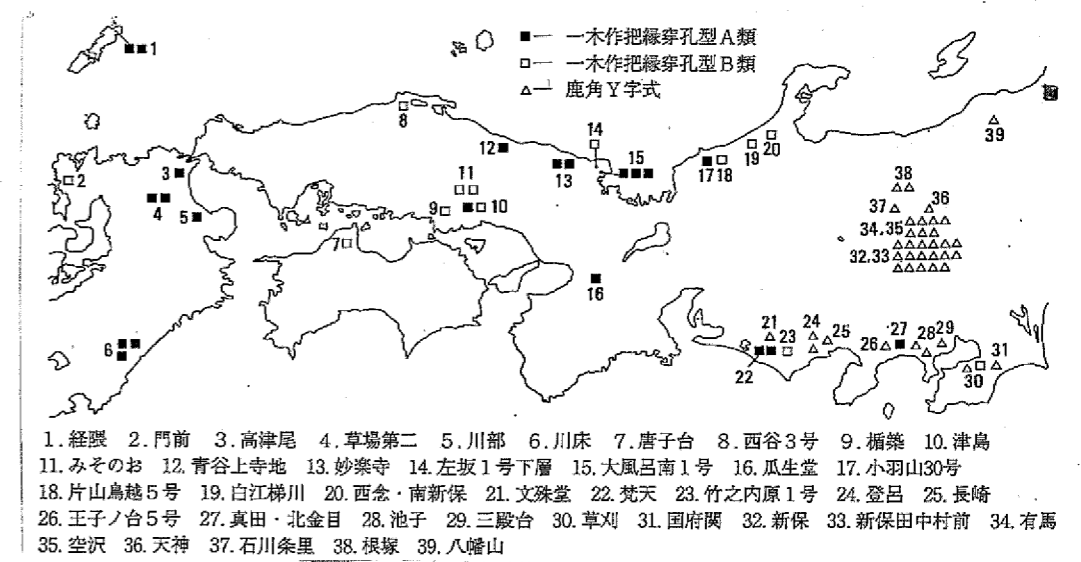
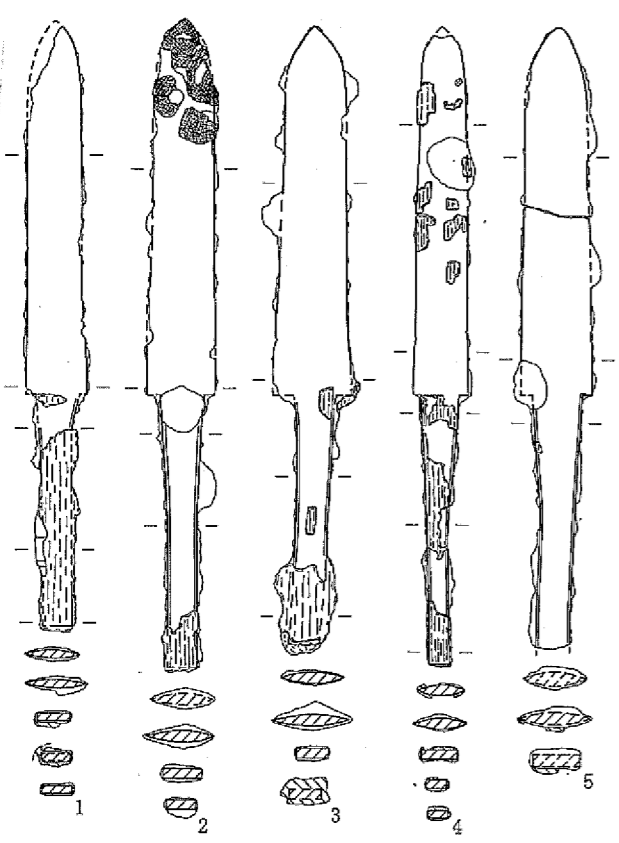


図7 木製把付鉄剣と鹿角製把・鉄剣の分布

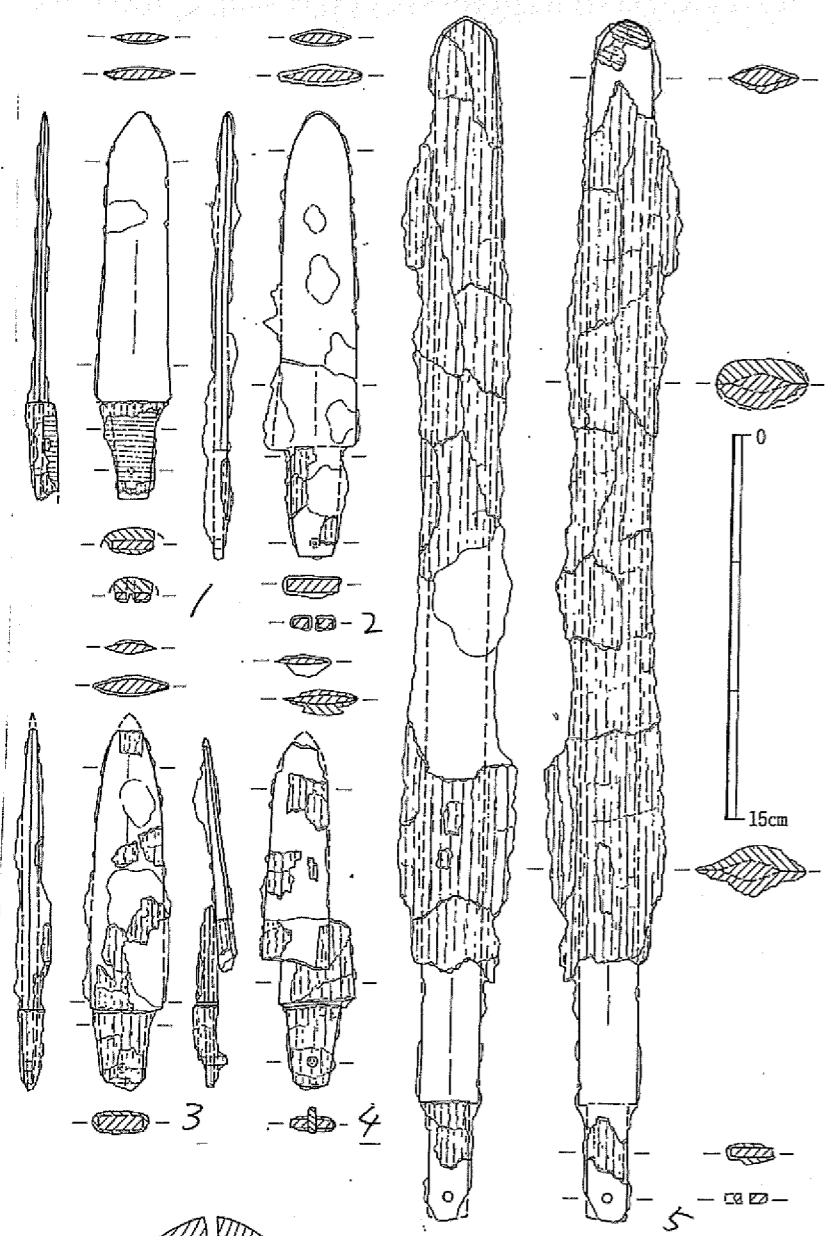


1. 岡山県用木4号 2. 広島県石鏡山1号 3. 広島県才が迫1号  
4. 愛媛県相の谷9号 5. 香川県鹿隅鏡子塚周辺

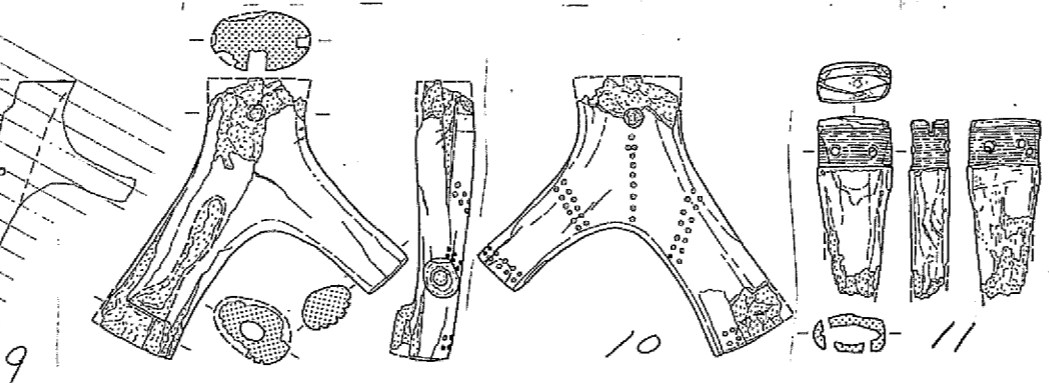
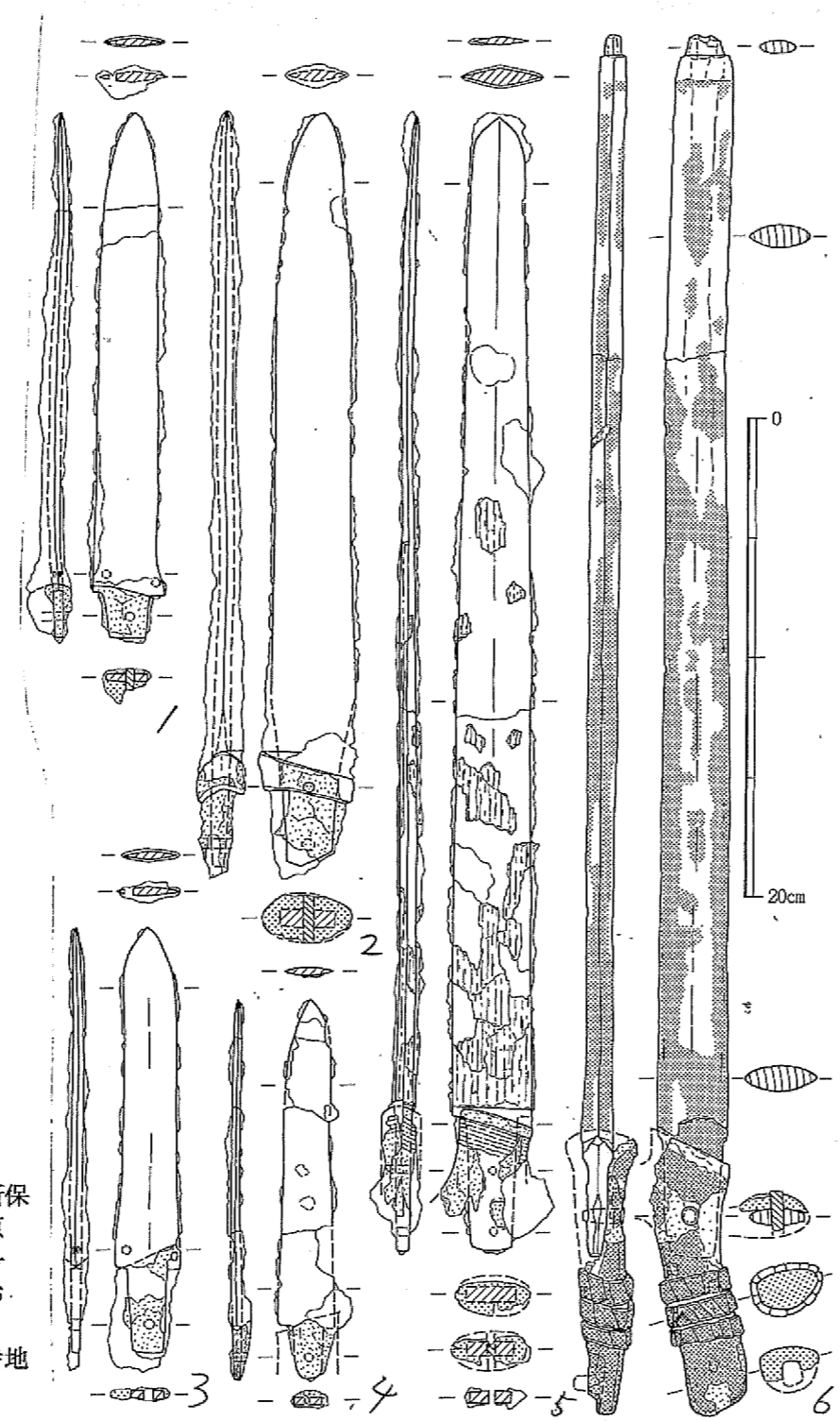
図3 同形同大の鉄剣 (ライアン 2019)

1. 須玖岡本 2. 門田 3. 安徳台 4. 豊・西小田 5. 吹上 6. 立岩堀田 7. 宮ヶ久保 8. 奈良谷 9. 朝日  
10. 八日市地方

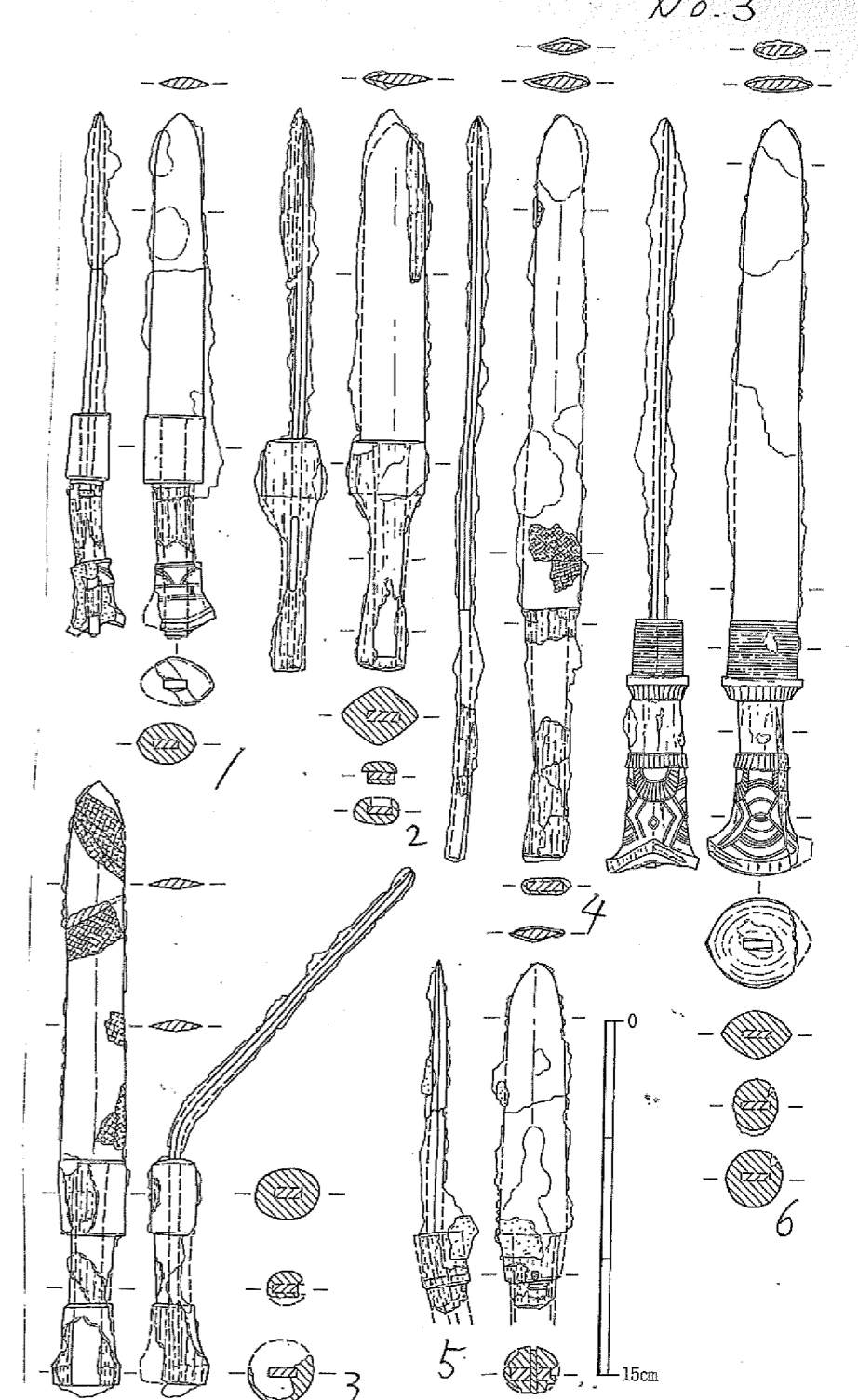
1. 経張 2. 門前 3. 高津尾 4. 草場第二 5. 川部 6. 川床 7. 唐子台 8. 西谷3号 9. 楯築 10. 津島  
11. みそのお 12. 青谷上寺地 13. 妙楽寺 14. 左坂1号下層 15. 大風呂南1号 16. 瓜生堂 17. 小羽山30号  
18. 片山鳥越5号 19. 白江梯川 20. 西念・南新保 21. 文殊堂 22. 梵天 23. 竹之内原1号 24. 登呂 25. 長崎  
26. 王子ノ台5号 27. 真田・北金目 28. 池子 29. 三殿台 30. 草刈 31. 国府岡 32. 新保 33. 新保田中村前 34. 有馬  
35. 空沢 36. 天神 37. 石川糸里 38. 根塚 39. 八幡山



- 1. 石川・西念南新保
- 2. 静岡・竹之内原
- 3. 京都・左坂1号
- 4. 岡山・みそのお
- 5. 岡山・楯築
- 6. 鳥取・青谷上寺地
- 7. 大阪・瓜生堂



- 1・2・3. 群馬・有馬
- 4. 群馬・空沢
- 5. 群馬・天神
- 6. 千葉・国府関
- 7. 想定復元図
- 8. 長野・根塚
- 9. 奈良・纏向 (スケッチ)
- 10. 静岡・長崎
- 11. 岡山・津島



- 1. 兵庫・養久山1号
- 2. 福岡・頓田高見
- 3. 福岡・那珂
- 4. 兵庫・井の端7号
- 5. 千葉・石揚2号
- 6. 広島・国司池の内

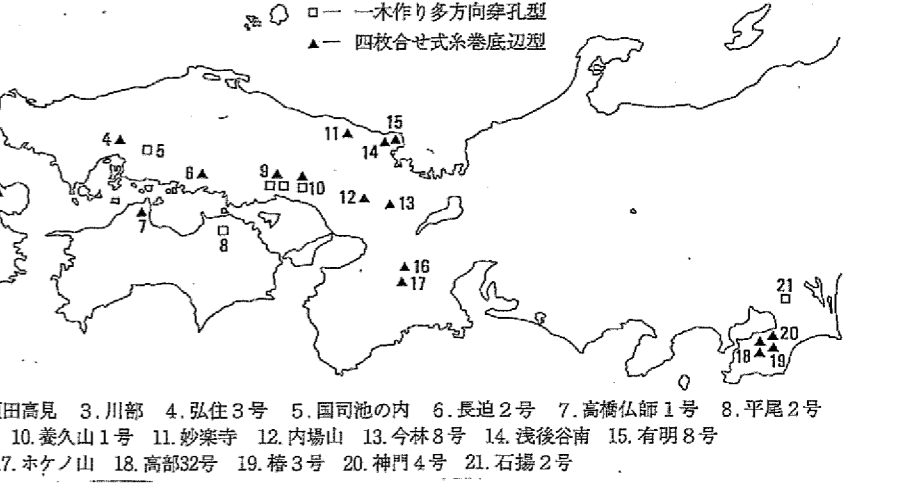


図12 四枚合わせ式鉄剣、一木造り式b把鉄剣の分布

図8 一木造り式aの把と鉄剣

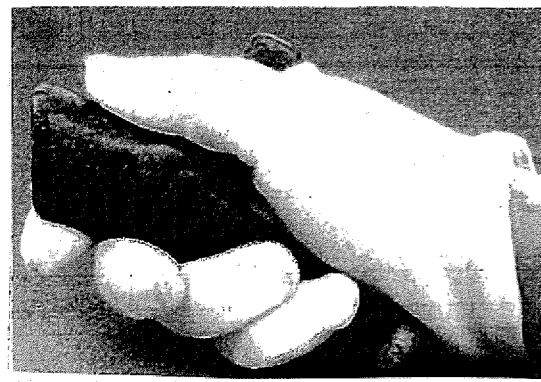
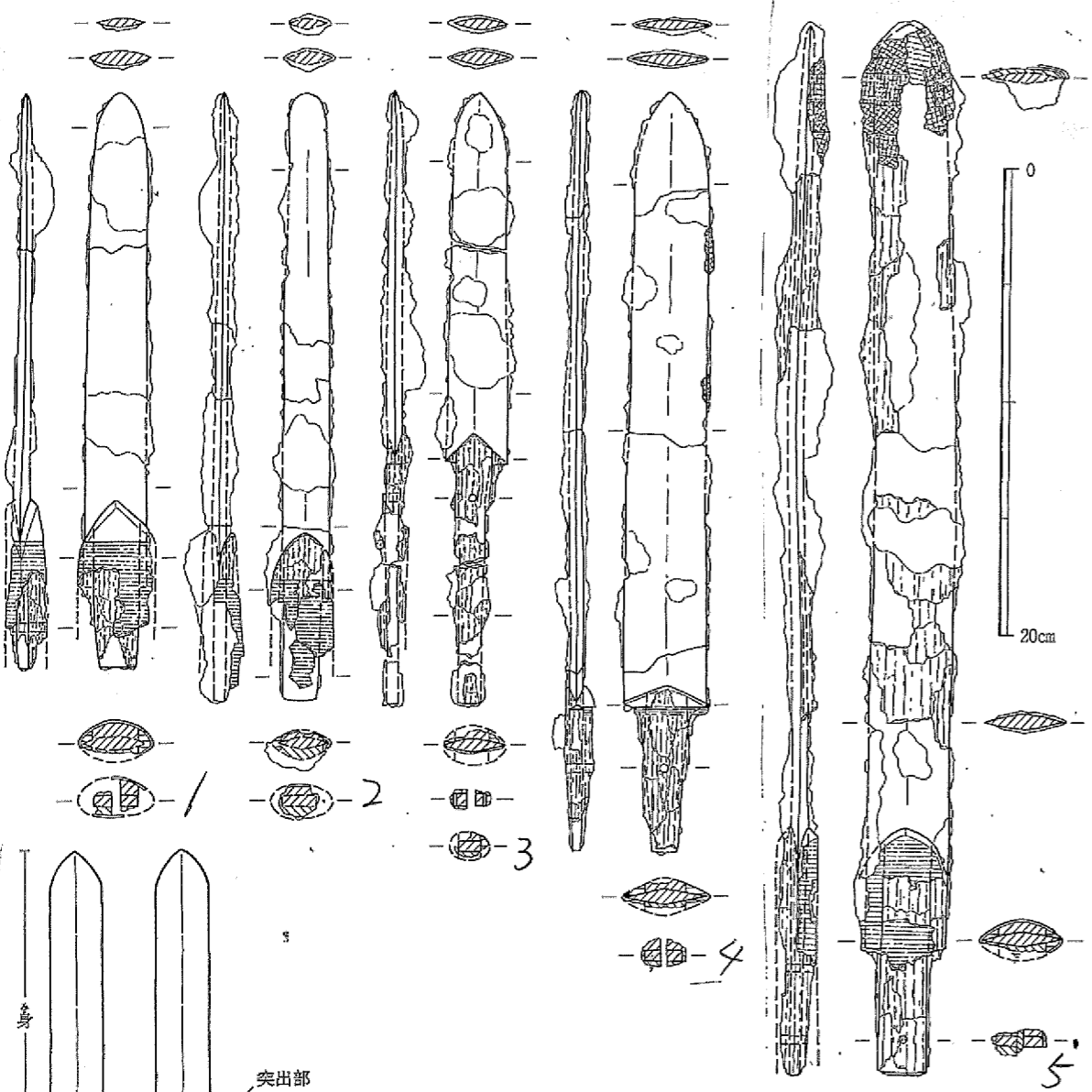


図9 鹿角製把の握り方

図10 鹿角製把と鉄剣

- 1. 那珂
- 2. 頓田高見
- 3. 川部
- 4. 弘住3号
- 5. 国司池の内
- 6. 長迫2号
- 7. 高橋仏師1号
- 8. 平尾2号
- 9. 井の端7号
- 10. 養久山1号
- 11. 妙楽寺
- 12. 内場山
- 13. 今林8号
- 14. 浅後谷南
- 15. 有明8号
- 16. 中山大塚
- 17. ホケノ山
- 18. 高部32号
- 19. 椿3号
- 20. 神門4号
- 21. 石揚2号



- 1. 広島・弘住3号
- 2. 広島・長迫2号
- 3. 千葉・高部32号
- 4. 兵庫・妙楽寺4A2号
- 5. 京都・椿井大塚山

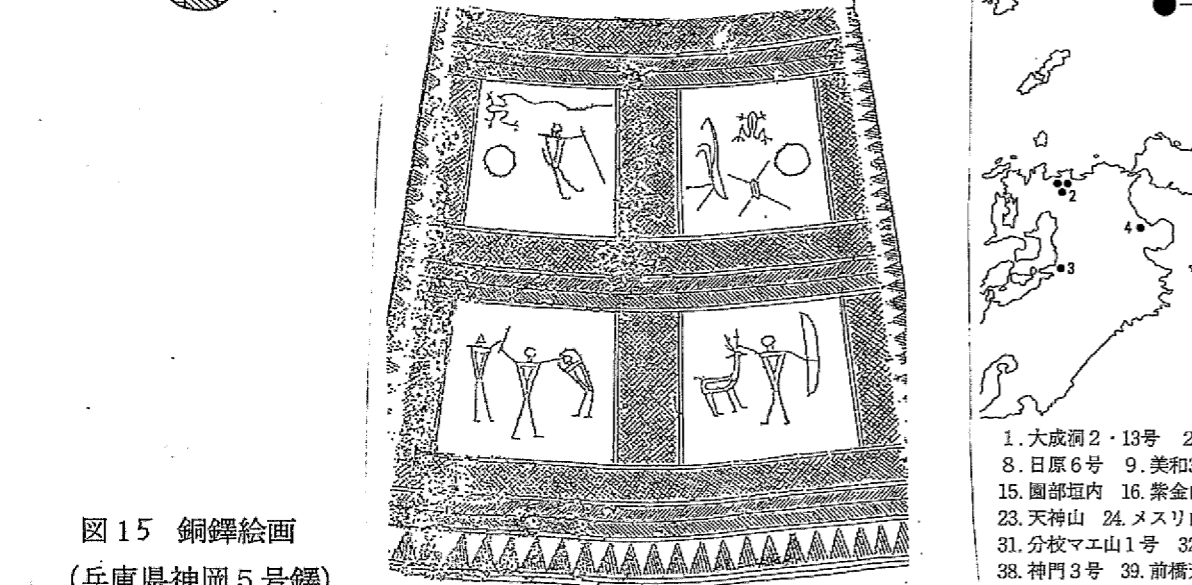
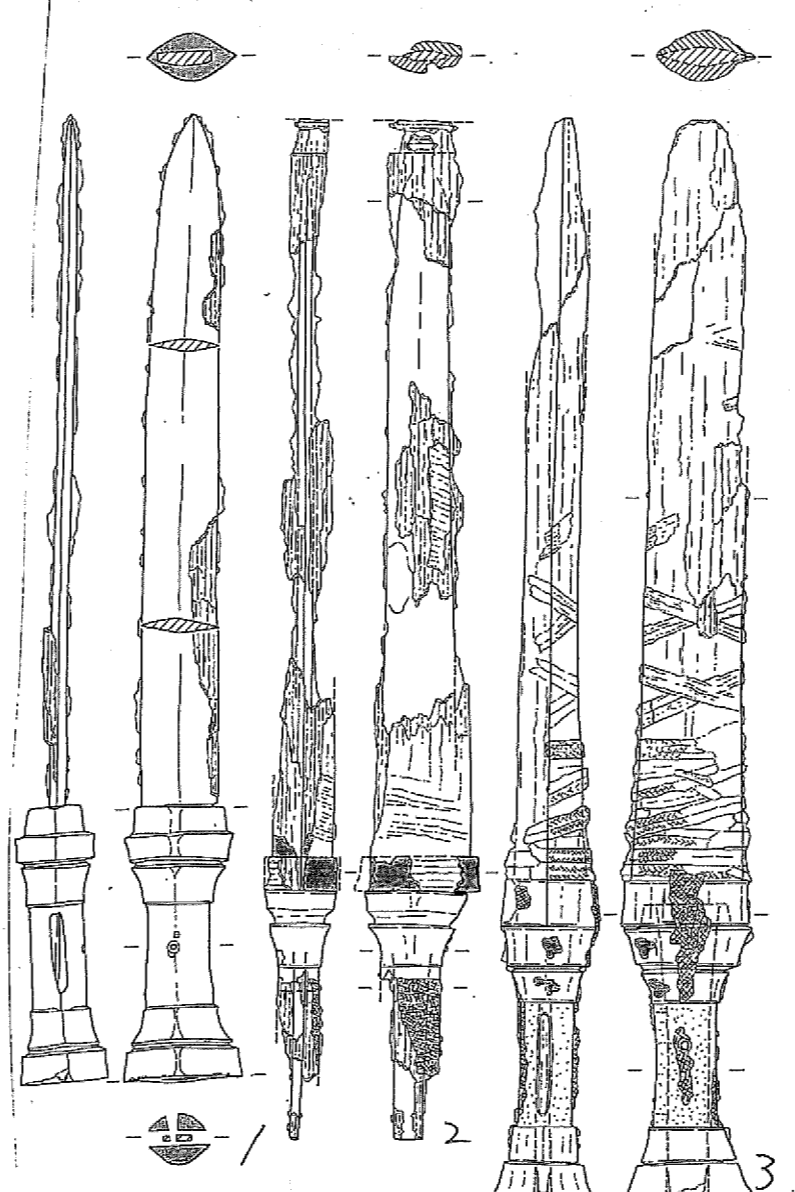


図15 銅鐸絵画 (兵庫県神岡5号鐸)



- 1. 大阪・豊中大塚
- 2. 福岡・エゲ
- 3. 熊本・天水経塚

図14 古墳時代の鉄剣

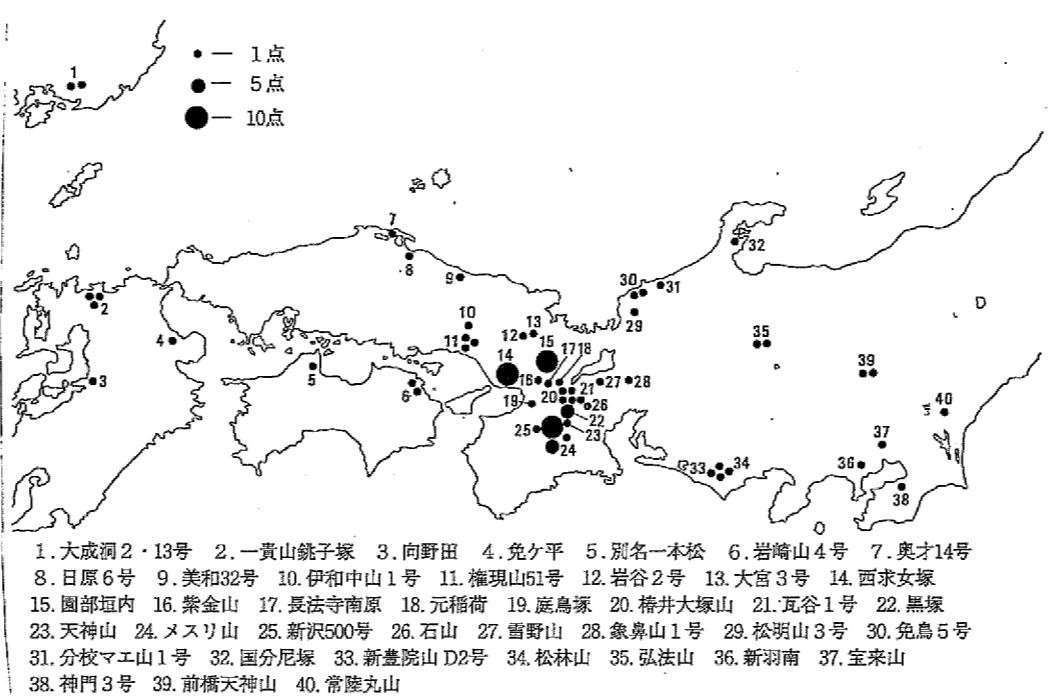


図16 四枚合わせ式ヤリの分布 (古墳時代前期)

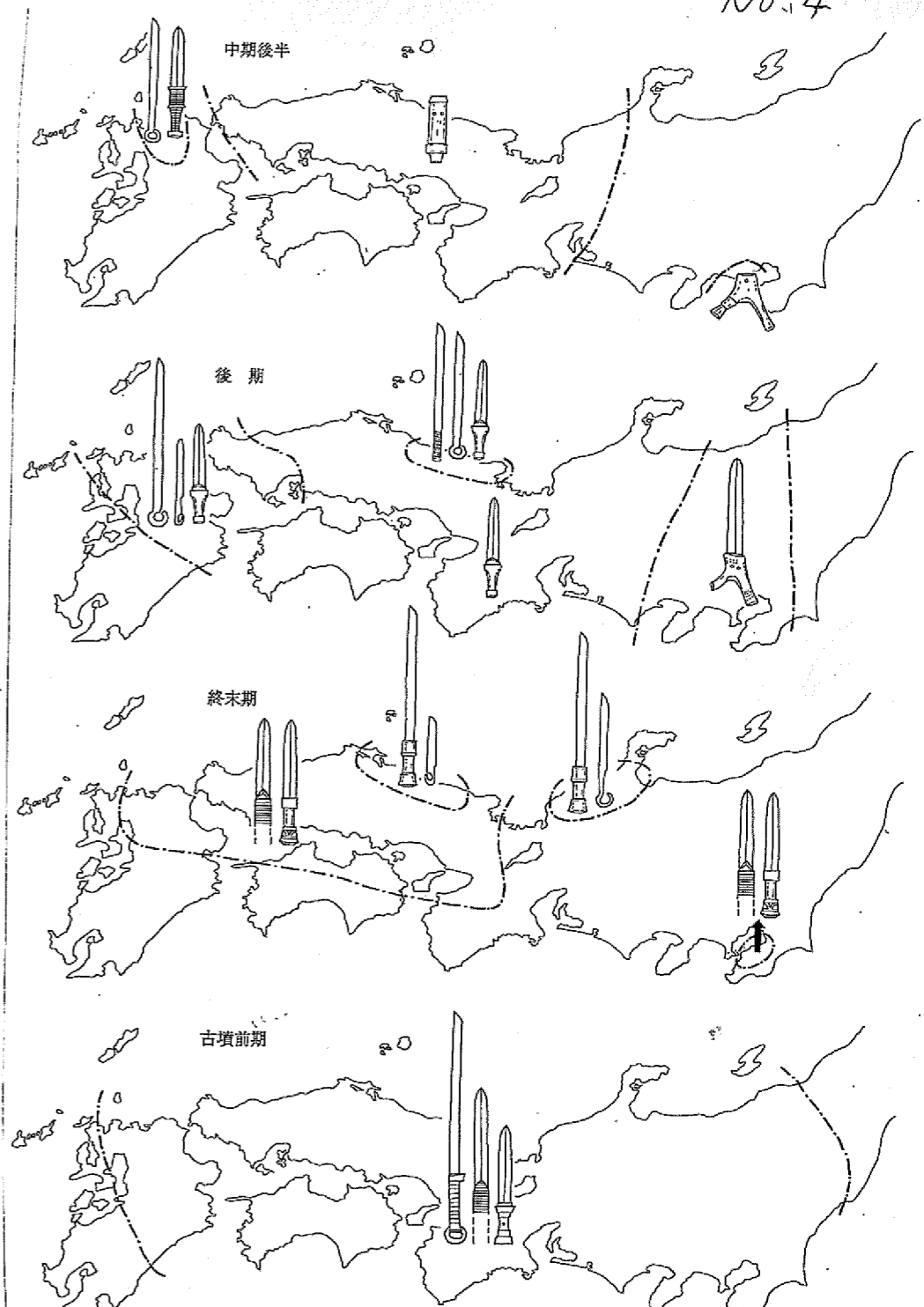


図17 鉄製刀剣の地域性

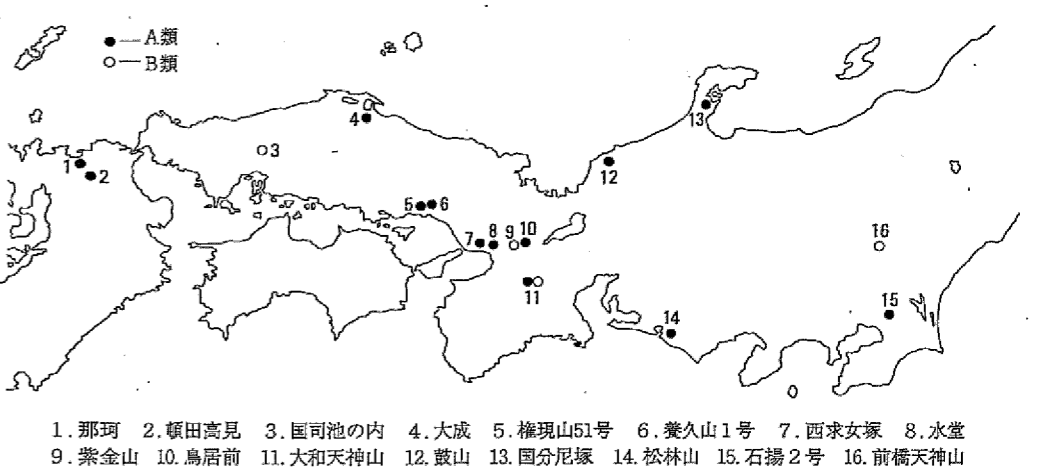


図18 一木造り式鉄剣の分布 (古墳時代前期)